

ポンプ場樹木剪定委託仕様書

第1章 総則

第1条 適用の範囲

この仕様書は、相模原市（以下「発注者」という。）が委託するポンプ場樹木剪定委託（以下「委託」という。）に適用する。

第2条 委託の目的

本委託の目的は、発注者が管理する公共下水道ポンプ場（以下「施設」という。）の高木中の仕立て、剪定、低木の刈り込み、除草を行うことで樹木形状を適正に整え、施設景観の保全を図るものである。

第3条 委託の内容

本委託の対象施設は、次の6施設とする。

施設名称	所在地
深堀ポンプ場	相模原市南区上鶴間3-21-1
古淵ポンプ場	相模原市南区古淵4-11-1
中和田ポンプ場	相模原市南区上鶴間本町9-51-4
中淵ポンプ場	相模原市中央区東淵野辺2-8-11
当麻ポンプ場	相模原市南区下溝1343-1
久所ポンプ場	相模原市中央区水郷田名4-1-1

第4条 法令等の遵守

受注者は、労働基準法、労働安全衛生法及びその他関係法令上の全てを遵守すること。

第5条 提出書類

- 1 受注者は、契約締結後、直ちに、工程表届、現場代理人及び主任技術者届を提出すること。また、業務着手前には、施工計画書を作成し、提出すること。
- 2 受注者は、業務完了後、直ちに、業務完了届、出来形書類（数量調書、図面等）、業務完了写真（相模原市土木工事写真管理基準を準用する）を提出すること。
- 3 受注者は、発注者が必要とする資料を作成し、提出すること。

第6条 周辺住民との協調

- 1 受注者は、周辺住民、施設利用者に対して十分な配慮を行い、危険がないように業務を遂行すること。
- 2 受注者は、作業上やむを得ず隣地に立ち入る場合は、事前に発注者が指名した監督員に報告し、地権者、住居者の了解を得ること。

第7条 損害賠償

受注者は、委託の履行に当たって、発注者又は第三者に損害を及ぼしたときは、その復旧及び賠償の全責任を負うものとする。

第8条 安全管理

- 1 受注者は、委託の履行に当たって、道路交通等の制限の諸手続が必要な場合は、事前に所轄警察署に届出て許可を取り、その許可条件を厳守すること。また、許可書の写しは監督員に速やかに提出すること。
- 2 受注者は、作業中の安全対策として、現場環境に対応した十分な保安設備を施すこと。道路及び民地側の機械除草業務等においては、必ず養生を施すこと。
- 3 受注者は、作業中のヘルメット着用、足場の確認、高所においては命綱の装着等、事故防止に必要な措置を十分行うこと。
- 4 万一事故が発生した時は、直ちに監督員及び関係各官公庁に報告するとともに、速やかに適正な措置をとること。
- 5 前項の通報後、受注者は事故の原因、経過及び被害内容を調査の上、その結果を直ちに報告すること。
- 6 場内除草を行う際には、ビニールシート等を使用し、隣地への飛散防止対策を講じることとする。

第9条 鍵の預託

発注者は、受注者の業務遂行に必要な施設の鍵を受注者に預託するものとし、受注者は、発注者から預託された鍵を責任を持って保管すること。また、本委託業務が完了した際には、直ちに発注者に鍵を返却すること。

第10条 報告書の提出及び検査

- 1 受注者は、発注者の指定する作業が完了した際には、速やかに報告書及び業務写真を提出し、監督員の確認を受けることとする。
- 2 発注者は、受注者から業務完了届が提出された後、検査を行う。
- 3 発注者が指名する検査員から、手直し、やり直しの指示がされた時は、受注者の負担で速やかに履行すること。

第11条 剪定枝の処分について

剪定枝（刈り込み及び除草を除く）の処分先は監督員の指示に従い下記に搬入すること。
搬入先：「㈱タケエイグリーンリサイクル相模原営業所」

所在地：相模原市緑区根小屋1726-1番地先

刈り込み及び除草業務に伴う処分先は、原則として南清掃工場又は北清掃工場のいずれかとする。

第2章 除草

第12条（目的）

除草・草刈り等は、以下を目的とする。

- 1 植栽地の美化及び都市美観の維持
- 2 樹木などの生育阻害の防止
- 3 病虫害発生の予防
- 4 火災の防止

第13条（機械除草（肩掛式））

- 1 作業前に小石などを除去し、周囲に飛散しないようにする。
- 2 刈りむらのないように均一に刈り込む。
- 3 刈り跡はきれいに整地清掃する。
- 4 樹木、株物、柵などを損傷しないように注意する。
- 5 樹木や施設などにかからんでいるつる性の草も除去する。
- 6 防護ネットを配置し、カッターによる小石などの跳ね飛ばし対策を徹底する。
- 7 除草回数は年2回とし、1回目を7月～8月、2回目は12月～1月適期とする。

第3章 剪定・刈り込み

第14条（目的）

樹木の剪定・刈り込みは、以下を目的とする。

- 1 樹冠内の日照や通風を確保し、樹木の健全育成を促すこと。
- 2 病虫害の予防。
- 3 強風等により枝折れする恐れのある部分などを排除し、未然に事故を防止すること。
- 4 敷地外へ枝葉が越境しないよう形状を調整し、美しく整えること。

第15条（剪定・刈り込みの基本的考え方）

- 1 地域の生態系、樹木の育成状況、周囲の環境に配慮すること。
- 2 ベッコウダケ・コフキダケ等の発生している枝については除去すること。
- 3 樹木に材質腐朽菌によるキノコの発生、不自然な揺らぎ、傾斜等の異常を発見した場合は、監督員に速やかに報告すること。
- 4 切り口が5 cm 以上の場合には、殺菌・癒合促進剤を塗布すること。
- 5 仕立物については特に樹形を維持・形成に留意し剪定すること。

第16条（冬季剪定）

- 1 樹高、樹冠を制限した一定の樹形を維持するために行う剪定で、枝葉が伸びた夏季に整った緑とするために、骨組みとなる骨格枝とそれに準ずる枝を作りながら、剪定後の枝条の自然さを失わずに、美しく見えるように行う。
- 2 剪定時期は、10月～12月頃を適期とする。

第17条（夏季剪定）

- 1 新しく伸びた枝が外観の樹形、樹冠の乱れや大きくなり過ぎることを防ぐ程度に剪定する。
- 2 繁茂し過ぎた枝葉を剪定して、通風、日照を良くしたり、台風の被害を軽減させる。
- 3 剪定時期は、8月～10月を適期とする。

第18条（常緑樹剪定）

- 1 初秋（9月～10月）を適期とする。
- 2 剪定方法は原則として基本剪定に準ずる。

第19条（基本剪定）

目標とする樹形維持・形成のために、枝の骨格・配置を作ることを目的とした骨格枝剪定に適用する。主に、枝降ろし、枝抜き剪定、切返し剪定によって、将来の枝の生長を予測した枝の数や長さ、配置を決め、不要枝を除去すると共に、整姿剪定を行って樹冠を整える。

第20条（剪定の方法）

- 1 樹木の性状や育成状況に応じた方法により、将来の枝葉の生育方向を見込んで行うこと。
- 2 枝の切除は枝の分岐部又は芽の直上で行うこと。また、枝の付け根の枝組織と幹組織が混じり合っているカラーと呼ばれる部分を傷つけないよう、正しい位置と角度により剪定すること。
- 3 枝の途中又は極端に細い枝を残して太枝を切るような、いわゆる「ぶつ切り」は行わないこと。
- 4 太枝を切除する場合は、枝の自重で切り口の付け根から裂けることを防ぐために、切断予定箇所の数十センチ上の部分をあらかじめ切除し、枝先の重量を軽くした上で切り返しを行う「二段切り」を行うこと。

第 21 条（刈り込み）

刈り込みハサミや刈り込み機を用いて樹冠などを刈り込み、樹形を整えるとともに、混み過ぎた枝や枯れ枝を除去し、通風、採光を確保するように行うものとする。

第 22 条（刈り込みの方法）

- 1 樹形全体に凹凸のないように、一定の形又は一定の高さに刈り込む。
- 2 花木の刈り込みにあたっては、花芽分化時期に留意すること。
- 3 ベンチなどの背後や歩道に沿って植栽されている中低木の刈り込み、剪定作業に際しては、尖った切断面が生じないように、ハサミで切り戻すなどの適切な措置をとること。
- 4 刈り込み機で刈り込んだ後、裂けたり、つぶれたりした枝の切り口や、枝葉の表面に出た太枝などは、ハサミで切り戻すこと。
- 5 枯損枝は、切除すること。

第 4 章 その他

第 23 条（相模原市環境方針の遵守）

受注者は、業務の遂行にあたって、「相模原市環境方針」の趣旨を理解し業務を行うものとする。

第 24 条（アイドリングストップの実施）

受注者は、業務実施にあたり車両を使用する場合は、アイドリングストップの実施を徹底し、他者に運搬等を委託する場合においても、アイドリングストップの実施を周知するよう努めるものとする。

第 25 条（再生紙の使用及びごみ減量化等の推進）

提出書類については、原則として再生紙を使用するとともに、業務実施に伴って発生するごみの減量化・資源化に推進すること。

第 26 条（疑義事項）

- 1 本仕様書に明示されていない事項及び業務の施行の細目については、監督員の指示に従わなければならない。
- 2 契約書、設計図書に、特に明示されていない事項で、業務の実施上危険防止措置、作業に必要な業務及び当然必要な事項については、受注者の負担において処理すること。
- 3 内容に疑義が生じた場合は、直ちに監督員へ報告し、協議すること。